

|        |            |         |                                                                                                     |
|--------|------------|---------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 授業科目名  | 共生教育学演習    | 科目番号    | 02EU120                                                                                             |
| 単位数    | 2単位        | 担当教員    | 庄司一子・飯田浩之・岡本智周                                                                                      |
| 授業時間   | 春AB 秋AB 応談 | 研究室     | 庄司:総合研究棟D315<br>飯田:総合研究棟D314<br>岡本:総合研究棟D316                                                        |
| 科目の種類  | 演習         | メールアドレス | 庄司:ichiko@human.tsukuba.ac.jp<br>飯田:hiroiiida@human.tsukuba.ac.jp<br>岡本:okamoto@human.tsukuba.ac.jp |
| 標準履修年次 | 1-3年       | オフィスアワー | 庄司:木曜15時~16時半<br>飯田:火曜14時~16時<br>岡本:金曜3限                                                            |

**授業の到達目標** 「共生教育学」は、個人の能力開発と個人間の競争を前提とした能力主義的メリトクラシー原理に依拠した近代公教育に代わる、新たな教育の在り方を理論的・実証的に探求することを目的としている。この目的を達成するためには、このような教育を支える、他者、共存、共生、配慮、互助、互恵、支援、世話(ケア)といった諸概念や考え方についての検討が不可欠である。併せて、このような教育の内容や方法、学校をはじめとする教育諸機関の組織や経営、さらには、教育の制度や広く社会の在り方についての検討も必要である。授業では、上記の検討を自らの研究テーマに引きつけ、かつ、それを的確に行える力を形成することを目標とする。

**授業の概要** 共生を志向する教育研究について、学校教育臨床学、教育経営学、教育社会学の立場から、討議、検討を行う。具体的には、受講者が進めている研究の計画や過程、成果を報告し合い、討議を通して、その視点や方法、結果について検討する。もって、研究の高度化、深化を図っていく。全10回を予定。

**テキスト** 花崎皋平『アイデンティティと共生の哲学[増補版]』平凡社、2001年。  
野口道彦・柏木宏編『共生社会の創造とNPO』明石書店、2003年。  
広井良典『ケアのゆくえ、科学のゆくえ』岩波書店、2005年。  
岡本智周・田中統治編『共生と希望の教育学』筑波大学出版会、2011年。

**参考図書** 授業を通じて、適宜、紹介すると同時に、受講者同士での紹介を心がける。

**成績評価の方法** 授業における報告と討論への参加によって評価する。

**授業計画**

| 回  | 担当教員     | 授業内容                      |
|----|----------|---------------------------|
| 1  | 庄司・飯田・岡本 | イントロダクション                 |
| 2  | 庄司・飯田・岡本 | 共生教育学研究の計画・過程・成果の報告と討議(1) |
| 3  | 庄司・飯田・岡本 | 共生教育学研究の計画・過程・成果の報告と討議(2) |
| 4  | 庄司・飯田・岡本 | 共生教育学研究の計画・過程・成果の報告と討議(3) |
| 5  | 庄司・飯田・岡本 | 共生教育学研究の計画・過程・成果の報告と討議(4) |
| 6  | 庄司・飯田・岡本 | 共生教育学研究の計画・過程・成果の報告と討議(5) |
| 7  | 庄司・飯田・岡本 | 共生教育学研究の計画・過程・成果の報告と討議(6) |
| 8  | 庄司・飯田・岡本 | 共生教育学研究の計画・過程・成果の報告と討議(7) |
| 9  | 庄司・飯田・岡本 | 共生教育学研究の計画・過程・成果の報告と討議(8) |
| 10 | 庄司・飯田・岡本 | 全体を通して——共生教育学の今後の課題       |

|        |            |         |                             |
|--------|------------|---------|-----------------------------|
| 授業科目名  | 共生社会学演習    | 科目番号    | 02EU121                     |
| 単位数    | 2単位        | 担当教員    | 岡本智周                        |
| 授業時間   | 春AB 秋AB 応談 | 研究室     | 総合研究棟D316室                  |
| 科目の種類  | 演習         | メールアドレス | okamoto@human.tsukuba.ac.jp |
| 標準履修年次 | 1-3年       | オフィスアワー | 金曜3限                        |

**授業の到達目標** 「ヒューマン・ケア」や「共生」が社会的に要請されるようになったこと背景を、「近代社会の近代化」という観点から整理し理解することを目標とする。そのうえで、「共生」を主題に含んだ社会学研究および教育学研究を遂行する。

**授業の概要** ナショナリティ・エスニシティ、ジェンダー・セクシュアリティ、身体、世代、階級・階層の各領域に亘る共生社会論を検討し、変容する社会構造について考究する。そのために、社会学における「近代社会の変容」論を学び、「個人と社会の関係」および「教育の社会化機能」の様相の変化を理解する。履修者が探究する主題に関連させつつ、順に発表し討議しあうことで学修を深め、新たな調査の実行と研究論文の執筆を支援する。

### テキスト

岡本智周・田中統治編『共生と希望の教育学』筑波大学出版会、2011年。  
ウルリヒ・ベック『危険社会——新しい近代への道』東廉・伊藤美登里訳、法政大学出版局、1998年。  
野口道彦・柏木宏編『共生社会の創造とNPO』明石書店、2003年。

### 参考図書

アンソニー・ギデンズ『社会学 第5版』松尾精文ほか訳、而立書房、2009年。  
岡本智周『共生社会とナショナルヒストリー——歴史教科書の視点から』勁草書房、2013年。  
——『歴史教科書にみるアメリカ——共生社会への道程』学文社、2008年。  
——『国民史の変貌——日米歴史教科書とグローバル時代のナショナリズム』日本評論社、2001年。  
宮寺晃夫・平田諭治・岡本智周『学校教育と国民の形成』学文社、2012年。  
その他、必要な文献は教場で指示する。関連資料は随時配布する。

### 成績評価の方法

授業での発表、レポートならびに出席状況を総合して評価する。

### 授業計画

| 回     | 担当教員 | 授業内容                             |
|-------|------|----------------------------------|
| 1~2   | 岡本智周 | オリエンテーション                        |
| 3~4   | 岡本智周 | 発表と討議(リスク社会論について)                |
| 5~6   | 岡本智周 | 発表と討議(再帰的近代化論について)               |
| 7~8   | 岡本智周 | 発表と討議(ナショナリティ・エスニシティをめぐる諸問題について) |
| 9~10  | 岡本智周 | 発表と討議(ジェンダー・セクシュアリティをめぐる諸問題について) |
| 11~12 | 岡本智周 | 発表と討議(身体をめぐる諸問題について)             |
| 13~15 | 岡本智周 | 発表と討議(世代をめぐる諸問題について)             |
| 16~18 | 岡本智周 | 発表と討議(階級・階層をめぐる諸問題について)          |
| 19~20 | 岡本智周 | まとめ                              |

|        |           |                  |                               |
|--------|-----------|------------------|-------------------------------|
| 授業科目名  | 教育社会学演習   | 科目番号             | 02EU122                       |
| 単位数    | 2単位       | 担当教員<br>(科目責任者)  | 飯田浩之                          |
| 授業時間   | 春AB秋AB 応談 | 研究室              | 総合研究棟D棟314                    |
| 科目の種類  | 演習        | 電話 又は<br>メールアドレス | hiroiiida@human.tsukuba.ac.jp |
| 標準履修年次 | 1-3年      | オフィスアワー          | 火曜日 14:00~16:00               |

**授業の到達目標** 「共生」を見据えた社会及び教育について、教育社会学の立場から理論的及び実証的に理解・探求・考察する力を獲得する。

**授業の概要** ネットワーク、社会関係資本、新たな公共、コモンズ、公正など、教育社会学研究を「共生」の観点から進めるうえで必要だと思われる概念を手掛かりに文献を講読、「共生」を見据えた教育社会学についての理解と探求を深める。

**テキスト** 授業のなかで、各自、講読に値すると思われる文献を持ち寄り、相互に検討するなかで、テキストを決定する。

**参考図書** 特に定めない。必要に応じて授業のなかで言及する。

**成績評価の方法** 授業への参加によって評価する。

## 授業計画

| 回     | 担当教員 | 授業内容                         |
|-------|------|------------------------------|
| 1     | 飯田浩之 | 春学期オリエンテーション／講読文献を含む、学期計画の策定 |
| 2~9   | 飯田浩之 | 基本概念を手がかりとした文献の講読(1)~(8)     |
| 10    | 飯田浩之 | 春学期のまとめ                      |
| 11    | 飯田浩之 | 秋学期オリエンテーション／講読文献を含む、学期計画の策定 |
| 12~19 | 飯田浩之 | 基本概念を手がかりとした文献の講読(9)~(16)    |
| 20    | 飯田浩之 | 秋学期／1年間の授業のまとめ               |

|        |            |         |                                                                            |
|--------|------------|---------|----------------------------------------------------------------------------|
| 授業科目名  | 教育臨床学演習    | 科目番号    | 02EU124                                                                    |
| 単位数    | 2単位        | 担当教員    | 庄司一子                                                                       |
| 授業時間   | 春AB 秋AB 応談 | 研究室     | 総合研究棟D315室                                                                 |
| 科目の種類  | 演習         | メールアドレス | <a href="mailto:ichiko@human.tsukuba.ac.jp">ichiko@human.tsukuba.ac.jp</a> |
| 標準履修年次 | 1-3年       | オフィスアワー | 木曜日 15:00~16:30                                                            |

**授業の到達目標** 研究論文を読む力を養い、先行研究を批判的に検討する力を養い、さらに先行研究の検討にもとづき的確な研究計画を立て、集団で研究を進める力を養うことをめざす。

**授業の概要** 教育臨床、学校教育臨床に関する最近のトピックスについて文献を集団討議し、教育臨床の理論・アプローチへの理解を深める。本年は、対人関係、絆、信頼感、ケア、レジリエンスをキーワードに関係論文、書籍を読み、集団討議を通して教育臨床における児童生徒の問題、援助に関する考察を深める。

**テキスト**

Luthar, S. S. Crossman, E. L., & Small, P.J. (2015). Resilience and adversity. Handbook of child psychology and developmental science 7. Joh Wiley & Sons Inc.

Noddings, N. (1984) Caring : A Feminine approach to ethics and moral education. The Regents of the University of California.

Martin, J. R. (1992). The schoolhome: Rethinking schools for changing families. Harvard University Press, London.

**参考図書**

Noddings, N. (2013). Education and Democracy in the 21st century. Teachers College Press, NY.

Noddings, N. (2005). The challenge to care in schools. An alternative approach to education. Teachers College Press, NY.

Noddings, N. (1986). Caring: A relational approach to ethics and moral education. University of California Press. LA.

**成績評価の方法** 授業での発表、レポート、出席状況を総合的に判断して評価する。

### 授業計画

| 回     | 担当教員  | 授業内容        |
|-------|-------|-------------|
| 1     | 庄司 一子 | オリエンテーション   |
| 2~5   | 庄司 一子 | 関係論文 発表, 討議 |
| 6~7   | 庄司 一子 | 研究計画        |
| 8~14  | 庄司 一子 | 調査実施        |
| 15~17 | 庄司 一子 | データ解析・検討    |
| 18~19 | 庄司 一子 | まとめ         |
| 20    | 庄司 一子 | 発表          |

|        |            |         |                             |
|--------|------------|---------|-----------------------------|
| 授業科目名  | 共生社会学特別研究  | 科目番号    | 02EU125                     |
| 単位数    | 2単位        | 担当教員    | 岡本智周                        |
| 授業時間   | 春AB 秋AB 応談 | 研究室     | 総合研究棟D316室                  |
| 科目の種類  | 演習と実習・実験   | メールアドレス | okamoto@human.tsukuba.ac.jp |
| 標準履修年次 | 1-3年       | オフィスアワー | 金曜3限                        |

**授業の到達目標** 「ヒューマン・ケア」や「共生」が社会的に要請されるようになったこと背景を、「近代社会の近代化」という観点から整理し理解することを目標とする。そのうえで、「共生」を主題に含んだ社会学研究および教育学研究を遂行する。

**授業の概要** 共生社会論・共生教育論の基礎となる社会理論を読み、この領域の議論の基本的な構図を把握する。講読と討論は、書物の著者が採用している論理構造を抽出し、それを理解することに焦点を定めて行う。そのうえで、履修者の探究の成果を順に発表し討議しあうことで学修を深め、新たな調査の実行と学位論文の執筆を支援する。

**テキスト** 岡本智周・田中統治編『共生と希望の教育学』筑波大学出版会、2011年。  
宮寺晃夫・平田諭治・岡本智周『学校教育と国民の形成』学文社、2012年。  
アンソニー・ギデンス『社会の構成』門田健一訳、勁草書房、2015年。

**参考図書** 上記テキスト以外に必要な文献は教場で指示する。関連資料は随時配布する。

**成績評価の方法** 授業での発表、レポートならびに出席状況を総合して評価する。

## 授業計画

| 回     | 担当教員 | 授業内容               |
|-------|------|--------------------|
| 1~2   | 岡本智周 | オリエンテーション          |
| 3~18  | 岡本智周 | テキストの講読と討論、研究発表と討議 |
| 19~20 | 岡本智周 | まとめ                |

|        |           |                  |                               |
|--------|-----------|------------------|-------------------------------|
| 授業科目名  | 教育社会学特別研究 | 科目番号             | 02EU126                       |
| 単位数    | 2単位       | 担当教員<br>(科目責任者)  | 飯田浩之                          |
| 授業時間   | 春AB秋AB 応談 | 研究室              | 総合研究棟D棟314                    |
| 科目の種類  | 演習と実習・実験  | 電話 又は<br>メールアドレス | hiroiiida@human.tsukuba.ac.jp |
| 標準履修年次 | 1～3年      | オフィスアワー          | 火曜日 14:00～16:00               |

### 授業の到達目標

教育社会学の立場から「共生」を見据えた社会及び教育についてテーマを確定し、その研究を進めるなかで、研究者としての理解力、探求力、考察力を獲得する。

### 授業の概要

履修者の研究に合わせて、研究の進行状況や成果を報告し合い、課題についての理解と探求を深め、研究活動を支援する。

### テキスト

特に定めない。

### 参考図書

特に定めない。必要に応じて授業のなかで言及する。

### 成績評価の方法

授業での研究報告、討議参加及び研究の進捗状況によって評価する。  
※週1回定例で開催する研究室の研究会への参加を含む。

### 授業計画

| 回    | 担当教員 | 授業内容                                  |
|------|------|---------------------------------------|
| 1    | 飯田浩之 | オリエンテーション                             |
| 2～10 | 飯田浩之 | 研究の進展状況の報告と研究についての検討(月1～2回の割合で集中して実施) |

※週1回開催の研究室定例の研究会への出席及びそこでの研究報告を含む。

|        |           |                  |                            |
|--------|-----------|------------------|----------------------------|
| 授業科目名  | 教育臨床学特別研究 | 科目番号             | 02EU128                    |
| 単位数    | 2単位       | 担当教員<br>(科目責任者)  | 庄司一子                       |
| 授業時間   | 春AB秋AB 応談 | 研究室              | 総合研究棟D棟315                 |
| 科目の種類  | 実習        | 電話 又は<br>メールアドレス | ichiko@human.tsukuba.ac.jp |
| 標準履修年次 | 1-3年      | オフィスアワー          | 木曜日 15:00~16:30            |

---

**授業の到達目標** 個々人の研究テーマ、研究内容にそって研究の指導を行う。研究の目的、方法、結果の分析が適切であるかどうかを検討し、研究の洗練、促進を目的として指導を行う。最終的に博士論文の完成が目標である。

**授業の概要** 各自の研究テーマに沿った先行研究の検討、理論の検討を行う。次に研究の目的の設定、研究方法の選択と決定、結果の分析、まとめ方について、個人指導、集団指導を必要に応じて並列して行う。

**テキスト** American Psychological Association (2009). Publication manual of the American Psychological Association, sixth edition.  
American Psychological Association (2009). Concise Rules of APA Style.

**参考図書**  
必要に応じて推薦する

**成績評価の方法** 指導を受ける際の準備状況、集団指導への参加・発言などにより総合的に評価する。

---

#### 授業計画

| 回    | 担当教員 | 授業内容                         |
|------|------|------------------------------|
| 1    | 庄司一子 | オリエンテーション、年間計画               |
| 2~20 | 庄司一子 | 個人指導を中心とし、個人指導と集団指導を並行して進める。 |